



片頭痛 ～たかが頭痛と思わずに～

脳神経内科 林 茂



頭痛は、日常診療で多い訴えの一つです。鎮痛剤を服用すれば症状が治まるものもあれば、生命に関わる重篤なものもあり、原因によって、予防法や対処法が大きく異なります。頭痛には、脳などに器質的な異常が見られない一次性頭痛と他の疾患によって起こる二次性頭痛とがあり、一次性頭痛には、片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛などがあります。

一次性頭痛の一つである片頭痛の発症メカニズムとしては、三叉神経から過剰に放出されるCGRP（カルシトニン遺伝子関連ペプチド）の関与が推定されています。また、20-40歳代の女性に片頭痛は多くなっていますが、月経前、月経中は、エストロ

ゲンの血中濃度が低下し、片頭痛が起こりやすい傾向があります。

片頭痛の治療薬には、トリプタン系薬剤やアセトアミノフェンなどの鎮痛薬があり、予防薬としては、抗てんかん薬、抗うつ薬、β遮断薬、カルシウム拮抗薬があります。2021年4月には、CGRP（カルシトニン遺伝子関連ペプチド）を標的とした注射薬が、予防薬として保険適応となりました。治療の新たな選択肢として注目されており、1ヶ月あたりの頭痛発作が4日以上で、内服の予防薬の効果が乏しい患者さんが適応となります。

◆脳神経内科（受付時間 8時30分～11時30分 午後は、要連絡）

	月	火	水	木	金
午 前	林	谷口	林	碓井	担当医

※事前予約が可能です。お気軽にふれあい地域医療センター（医療機関からの予約専用 TEL 0766-422-1114）にご連絡ください。

国難から市民を守る

病院長 藤村 隆



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)も第4波がようやく落ち着き、富山県内の警戒レベルは7月3日にステージIに下げられました。しかし今後7月のオリンピック特例連休から8月のお盆にかけて人の動きが活性化することやデルタ変異株の影響などを受けて、再度増加する可能性も高いと考えられ、まだまだ油断できない状況にあります。

当院は、第二種感染症指定医療機関として基本的にCOVID-19の診療を最優先して参りました。すなわち、PCR行政検査、帰国者・接触者外来、COVID-19患者の入院治療に加えて、発熱外来（当初は駐車場のプレハブで現在は院内で運用）を開設して発熱患者の対応が困難な診療所などから積極的に患者を受け入れています。これまで400名近くの患者のご紹介をいただき約150名の方が入院となっておりますが、うち10名がCOVID-19患者でした。

一方でこの国難ともいえるCOVID-19を少しでも早期にコントロールすること、すなわち発生数を抑制することが最優先と考えており、これらの診療に加えてワクチン接種にも力を注ぐようにしています。3月より当院の希望する全ての職員を皮切りに、市の関連施設の医療関係者を中心に延べ3441回の接種を行いました。その後は高齢者に関しては、院内で外来の午後の時間を使って7/13の時点で延べ323回を行うとともに、急患センターを始め、テクノホールや国際会議場などの大規模接種会場に医師、看護師を派遣しています。

また7月に感染症専門医による感染症内科（月2回）をオープンしました。これまでも感染制御チーム(ICT)が中心となって、多剤耐性菌対策や、COVID-19などの新興・再興感染症の診療を行ってきましたが、専門医がないことが課題となっていました。最初は感染症専門医の診療は院内発生の難治性感染症を対象としますが、入院中の患者さんにとっては非常に有益なものになると期待しております。

これからも市民病院は医療を通じて市民の健康を守り、地域医療を充実させていく所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。





1. 地域連携症例検討会

※8月の地域連携症例検討会の開催はありません。

予告 日時：9月14日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

内容：

- 1) 症例検討
 - (1) 脳神経内科症例
 - (2) 泌尿器科症例

2) ミニレクチャー

『脳卒中治療ガイドライン2021からみた 脳梗塞急性期に対する機械的血栓回収療法』

脳神経外科 毛利 正直、宇野 豪洋、山野 潤

脳梗塞急性期に対する治療は薬物治療を中心とした内科治療が重要な役割を占めていますが、今回は2021年7月に全面改定された脳卒中治療ガイドライン2021の脳梗塞急性期に対する機械的血栓回収療法について説明します。発症早期の脳梗塞では、①内頸動脈または中大脳動脈M1部の急性閉塞、②発症前のmRSスコアが0または1、③頭部CTまたはMRI拡散強調画像でASPECTSスコアが6点以上、④NIHSSスコアが6点以上、⑤年齢18歳以上、のすべてを満たす症例に対してtPA静注療法を含む内科治療に追加して、発症から6時間以内にステントリトリーバーまたは血栓吸引カテーテルを用いた血栓回収療法を開始することが勧められる。最終健常確認時刻から6時間を超えた内頸動脈または中大脳動脈の急性閉塞による脳梗塞では、神経徴候と画像診断に基づく治療適応判定を行い、最終健常確認時

刻から16時間以内に血栓回収療法を開始することが勧められる。また、16～24時間以内に同療法を開始することが妥当である。ASPECTSが6点未満の広範囲虚血例、NIHSSスコア6点未満の軽症例、中大脳動脈M2部閉塞例、発症前のmRS2スコアが2以上の症例、脳底動脈の急性閉塞、以上に関して血栓回収療法を行うこと、発症から4.5時間以内にtPA療法を行わずに血栓回収療法を行うことも考慮しても良いと記載されています。以上より今後は治療デバイスの選択が広がり、最終健常確認時刻から時間が経過している症例、重症例または軽症例、様々な閉塞部分の症例についても治療を考慮していく必要があります。当院でもこれまで以上に多くの症例に血栓回収療法を行い脳梗塞急性期の治療に貢献できるように発症から治療までが円滑に行えるように広報活動を行っていきたいと考えています。

※定例の研修会、看護研修

当面の間、開催を見合わせております。

衛星研修S-QUE研修は、今年度より開催中止となりました。

ふれあい地域医療センターからのお知らせ

日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

お盆期間中の**8月14日（土）**のふれあい地域医療センターにおける電話予約の業務は、誠に勝手ではございますが、お休みさせていただきますので、よろしくお願いいたします。



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

災害医療への取り組み

認定災害医療ロジスティクス専門家 島崎 哲弥

日本は諸外国と比較しても災害が多い国とされ、地震だけでなく、近年では大雨や台風などの風水害による被害が毎年のように報告されています。災害時には、災害による怪我や避難生活に伴う健康被害などにより、医療需要が増加するため、災害時の医療活動が重要とされています。このことから、当院は災害拠点病院として、災害に強い病院を目指して活動しています。

災害発生時は、多発外傷、挫滅症候群、広範囲熱傷等の重篤な救急患者が増加することが予想され、救急医療体制を維持することが重要です。また、被害によっては地域の医療機関が診療継続困難な状況に陥ることも想定されるため、災害時も地域の医療機関と連携して、受け入れ態勢を構築することが重要と考えています。

当院は、災害派遣医療チーム「DMAT(ディーマット) Disaster Medical Assistance Team」も保有しております。DMATは、大規模災害や多数傷病者が発生した現場で、急性期から活動する医療チームです。過去には、東日本大震災、熊本地震、令和元年東日本台風(長野県)へチームを派遣し、医療支援活動を行っております。

富山県は、比較的災害の少ない県とされていますが、災害はいつどこで発生するかわかりません。万が一、富山県および地域が被災した場合でも、地域の皆様と連携できるように、今後も定期的な研修や訓練を実施していきます。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

8月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	林	13日	産婦人科	長谷川徹	13日、16日
	桶家	26日		田中	20日、23日
	大田	24日	精神科	木戸	17日、19日
	野村智	31日		宮下	24日、25日、26日、27日
	水野	13日、20日	形成外科	小林大	10日、11日、12日、13日
	毛利研	6日		野村佳	11日、12日、13日
	山田和	3日	皮膚科	大村	23日
	赤崎	23日		山野	13日
	石坂	6日	脳神経外科	毛利正	17日、18日、20日
外消化器外科 乳腺外科	佐々木	13日	呼吸器・血管外科	湖東	24日、25日
	竹下	13日、16日	小児科	和田	5日、19日
	渡邊	4日、5日		眼科	山田芳
名倉	23日、25日	高松	25日		
泌尿器科	高瀬	12日、19日	狩野		16日、27日
整形外科・ 関節再建外科	重本	6日	耳鼻いんこう科・頭頸部外科	児島	16日
	岩井	3日	歯科口腔外科	朝倉	6日、23日
麻酔科	永川	5日			

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112(代) 内線2168

編集後記

局所的な激しい豪雨からの記録的な猛暑・・・身体がついていきません。そんな暑さを乗りきる対策として私はスイカで水分補給をしています。いつも祖父母の家から、スイカをいただき食べています。今年の天候はスイカにとっては良い環境で甘みが凝縮しておいしいです。祖父母は孫やひ孫に食べてもらおうとサルヤタヌキにとられないように、暑い中外に出て棒を持って畑に立ち、時には爆竹を鳴らして追い払っています。90近い年齢ですが、栄養ドリンクやウナギを食べ、畑で野菜や果物を育て、働いている姿を見て感謝しかありません。

みなさんも季節の食べ物や果物などを摂って、暑い夏を乗り切っていきましょう。

ふれあい地域医療センター 中田 佑花



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp